

平成 17 年度 事業報告書

平成 17 年度 収支決算書

社団法人 日本家族計画協会

運 動 目 標

全国どこでも、誰もが望めば、リプロダクティブ・ヘルス
サービスを受けられる社会の実現

基 本 方 針

公益法人として行政と協力し、学会の指導を得ながら、
リプロダクティブ・ヘルス運動のリーダーシップを確立する

基 本 テ ー マ

- I. 受胎調節
- II. 思春期保健
- III. 健康教育
- IV. 性教育・相談
- V. 遺伝相談
- VI. 母子保健・子育て支援
- VII. 不妊相談
- VIII. 中高年女性保健
- IX. 男性性保健
- X. STD および HIV／エイズ予防
- X I. 性暴力・児童虐待・子どもの事故予防
- X II. 思春期クリニックおよび緊急避妊ネットワークの構築
- X III. 国際協力
- X IV. 関係団体との協力

運 動 拠 点

『市町村・保健所』『病院・診療所』『小・中・高・大・専門校』
『事業所・健康保険組合』『福祉施設』

組 織 活 動 の 対 象

『医師』『保健師』『助産師』『看護師』『養護教諭』
『教諭』『保健担当者』他コメディカル

はじめに

わが国の少子化は予想をはるかに上回るスピードで進行し、12月の厚生労働省の人口動態統計速報では1889年に統計を取り始めて以来、自然増加数がマイナスとなり、本格的な人口減少社会の到来となった。その一方で高齢社会の訪れも現実味を帯びて、人口構成が大きく変化し社会経済の変革を迫られる事となった。そうした中、安心して子どもを産み育てることのできる社会環境の整備、高齢社会における経済、医療、福祉のあり方など社会基盤の改革整備が求められており、これからの日本の進路にも大きな影響を及ぼすこととなった。

10代の人工妊娠中絶が減少傾向にあるものの未だに約3万5千件（総数は約30万2千件）を数え、全中絶件数の約1割を占めている現状から、厚生労働省も「健やか親子21」の国民運動を通してさらに推進を図るよう関係機関に要望した。避妊効果の高いピルが承認されて6年目を迎えたが、未だにその使用率は2%に満たない低さに必ずしも関係者の努力が報われていない中、第一線の産婦人科医とコメディカルを対象に全国10会場においてピルの最新情報と処方の仕方などをテーマに「OC（経口避妊薬 **Oral Contraceptives**）啓発セミナー」を開催し、約1,300名余の参加者があった。このことはピルの関心の高さを示すとともに、本会がセミナー活動を通して今後のピル普及啓発に重要な役割を果たすことが期待されている。さらに「低用量経口避妊薬の使用に関するガイドライン」が6年ぶりに改訂された。その改訂内容や科学的根拠に基づいたセミナーを全国的に開催し、ピル処方に消極的な医師への啓発を図った結果、大きな反響を得てこれからの人工妊娠中絶防止の活動に確かな手ごたえを感じた。

思春期クリニックはマスコミへのアドボカシー（啓発、提言活動）活動を積極的に取り入れて思春期の子どもたちの問題を国会の政府審議会の場、学会発表、新聞・雑誌・テレビなどのメディアを通して社会に問い、思春期保健の重要性を提起した。電話相談部門においても従来の「ピルサポートデスク」に加え「OCサポートコール」を開設してOCの啓発普及活動を積極的に行った。さらに本会のクリニックをモデルとした「思春期地方クリニック」を前年の20施設から29施設に増設して思春期の子どもたちの「心」と「体」について診療および相談の拠点とした。また緊急避妊については避妊に失敗した切実な相談が増え、あらためて確実に避妊ができるための知識の普及と実践教育の必要性を感じ、全国1,500の産婦人科で作る緊急避妊ネットワークの活用を図った。

セミナー・研修部門では、最近10代の性感染症の罹患率が増加傾向にあり、その対応が急がれる中で、「指導者のための避妊と性感染症予防セミナー」（学校と

地域との連携を考える)を全国8会場で開催し、約1,700名余の関係者を集めて実施され好評を得た。また思春期保健セミナーに対する関心も相変わらず高く、日本思春期学会の指導を得て本会が認定する「思春期保健相談士」は6,731名を数え、地域での活躍が期待されている。さらに思春期保健の推進に効果的であるピア(仲間)の活動の評価も高まり、JFPA若者委員会(U-COM ユース・コミッティー)が活動する各種キャンペーンなどの啓発活動を積極的に支援した。

機関紙「家族と健康」は専門情報紙としての評価が高く、行政、事業所などが行う各種健康教育、保健指導の機会に活用された。地域情報もテーマを決めて継続的に掲載をしていることより様々な事業の進め方を具体的に紹介できたことは、コメディカルや教育関係者などから事業展開にあたって必要な情報を得ることができる」と評価されている。

教材の企画・制作・頒布活動は地域情報を取り入れて、具体的で役に立つ教材作りを心がけるとともに、リニューアルも積極的に行い頒布活動を展開したが、平成の市町村大合併による市町村数の減少の影響は大きかった。ダイレクトメール送付先の精査、本会機関紙での新教材の紹介、タイミングを得た中刷り広告の掲載、チラシの積極的な配布、各種学会での展示、研修会での資料配布、他の広報媒体の活用など広く周知活動を積極的に行ったことは効果的であった。一方で市町村の予算の減少で頒布活動には厳しいものがあつたが、各種事業を推進するための実際的で役に立つ教材づくりを心がけたことで、目標に対する貢献は大きかったと評価できる。

国際協力は国際協力機構(JICA)の委託を受け(財)家族計画国際協力財団(JOICFP)が実施する各種セミナーへの協力および家族計画関係者の受け入れを行い、思春期保健事業の進め方及び本会の経験による経済的自立のノウハウ、教材の効果的な制作と頒布活動などについて紹介した。また国際家族計画連盟(IPPF)への加盟についても公益法人改革の方向を見据えながら昨年引き続き継続することになった。

(社)母子保健推進会議が行う「母子保健推進員研修会」の開催に協力を行うとともに地域母子保健福祉情報紙「母推さん」の発行及び10月に行う「母子保健強調月間」、「妊婦禁煙運動」などの諸事業を支援した。

本年度も(財)家族計画国際協力財団、(社)母子保健推進会議、(財)予防医学事業中央会、(財)東京都予防医学協会、(社)全国保健センター連合会等の関係諸団体との協力により諸事業も計画書に基づき予定通り実施した。

平成 17 年度事業概要

I 受胎調節普及事業

1. 第一線の産婦人科医とコメディカルのための OC 啓発セミナーの開催

(社) 日本産科婦人科学会、(社) 日本産婦人科医会の後援により、OC (Oral Contraceptives、低用量ピル) の最新の情報や普及啓発のための情報を共有するため全国 10 会場で開催した。なお、第 1 回目の開催は平成 17 年 3 月 13 日 (日) 都市センター (東京 191 名) で行ったため、平成 16 年度事業とした。

開催日・会場・受講者

(1)	4 月 10 日 (日)	千里ライフサイエンスセンター (大阪府)	157 名
(2)	4 月 24 日 (日)	主婦会館プラザエフ (東京都)	191 名
(3)	5 月 15 日 (日)	ハーネル仙台 (宮城県)	137 名
(4)	5 月 29 日 (日)	大阪国際会議場 (大阪府)	240 名
(5)	6 月 5 日 (日)	朱鷺メッセ (新潟県)	100 名
(6)	6 月 19 日 (日)	福岡国際会議場 (福岡県)	121 名
(7)	7 月 3 日 (日)	アスティールホール (北海道)	106 名
(8)	7 月 24 日 (日)	広島サンプラザ (広島県)	114 名
(9)	8 月 7 日 (日)	名古屋国際会議場 (愛知県)	136 名

内 容 : 講義「OC 処方 BEST プラクティス」

特別講演「OC の最新情報」

シンポジウム「OC 処方、私の工夫」

講 師 : 本会クリニック所長	北 村 邦 夫
東京大学大学院医学系研究科・医学部産婦人科学教授	武 谷 雄 二
三宅婦人科内科医院院長	三 宅 侃
徳島大学大学院医学部女性医学教授	苛 原 稔
東京医科歯科大学大学院生殖機能協同学教授	麻 生 武 志
弘前レディースクリニックはすお院長	蓮 尾 豊
近畿大学医学部産科婦人科学教室教授	星 合 昊
済生会富山病院産婦人科医長	種 部 恭 子
埼玉医科大学産婦人科教授	石 原 理
鹿児島大学大学院生殖病態生理学教授	堂 地 勉
弘前大学医学部産科婦人科学教授	水 沼 英 樹
国家公務員共済組合連合会浜の町病院診療部長	中 村 元 一
九州大学医学部生殖病態生理学助教授	野 崎 雅 裕

シンポジスト：

久野マインズタワークリニック	加藤 礼子
池袋クリニック	助川 雄太
神田第二クリニック	間壁 さよ子
ちかえレディースクリニック	田所 千加枝
茶屋町レディースクリニック	出田 和久
三宅婦人科内科医院院長	三宅 侃
いえさか産婦人科医院	家坂 清子
しのぎきクリニック	篠崎 百合子
四ッ谷レディースクリニック	小林 秀文
あおもり協立病院	平岡 友良
村口きよ女性クリニック	村口 喜代
村口きよ女性クリニック	木村 美和子
弘前レディースクリニックはすお	蓮尾 豊
木内女性クリニック	木内 千暁
レディースクリニックさわだ	澤田 益臣
済生会富山病院産婦人科	種部 恭子
あわの産婦人科医院	道又 敏彦
かねまるウイメンズクリニック	金丸 みはる
美加レディースクリニック	金谷 美加
苗穂レディースクリニック	堀本 江美
ウイメンズクリニックかみむら	上村 茂仁
ケイ女性クリニック	松村 圭子
咲江レディースクリニック	丹羽 咲江
ごきそレディースクリニック	小川 麻子

2. 産婦人科医とコメディカルのための「OC啓発セミナー」の開催

(社)日本産婦人科学会、(社)日本産婦人科医会の後援により低用量経口避妊薬(OC)の使用ガイドラインが改訂されたため、改訂内容や科学的なエビデンスについて、医師、服薬指導に当たるコメディカルを対象に開催した。

全国8会場で平成18年度事業として開催するが今年度に2会場で開催した。

開催：

- (1) 期 日：平成18年3月12日(日)
会 場：日本海運クラブ(東京都)
参加者：360名
- (2) 期 日：平成18年3月26日(日)

会 場：リーガロイヤル NCB（大阪府）

参加者： 221 名

内 容：講義「OC ガイドライン何がどう変わるか」

特別講義「EBM（エビデンス・ベースド・メディシン）で OC ガイドラインを読み解く」

まとめと質疑応答「ガイドラインを有効に活用するために」

講 師：本会クリニック所長

北 村 邦 夫

東京大学大学院医学系研究科・医学部産婦人科学教授

武 谷 雄 二

山形大学医学部医学科発達生体防御学講座女性医学分野教授

倉 智 博 久

にしなレディースクリニック院長

仁 科 秀 則

弘前レディースクリニックはすお院長

蓮 尾 豊

3. 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー～学校と地域との連携を考える～

（社）日本助産師会、全国助産師教育協議会との共催で、避妊と性感染症の普及啓発を目的に学校と地域の連携をメインテーマに開催した。

開 催：

(1) 第 32 回 東京会場

期 日：6 月 25 日（土）

会 場：コクヨホール

受講者：289 名

(2) 第 33 回 札幌会場

期 日：7 月 2 日（土）

会 場：札幌コンベンションセンター

受講者：158 名

(3) 第 34 回 宮城会場

期 日：9 月 3 日（土）

会 場：仙台国際センター

受講者：217 名

(4) 第 35 回 愛知会場

期 日：10 月 15 日（土）

会 場：名古屋サンプラザ

受講者：146 名

(5) 第 36 回 広島会場

期 日：11 月 5 日（土）

会 場：広島サンプラザ

受講者：121 名

(6) 第 37 回 福岡会場

期 日：12 月 17 日（土）

会 場：福岡国際会議場

受講者：202 名

(7) 第 38 回 大阪会場

期 日：平成 18 年 1 月 28 日（土）

会 場：大阪科学技術センター

受講者：287 名

(8) 第 39 回 東京会場

期 日：平成 18 年 2 月 25 日（土）

会 場：コクヨホール

受講者：312 名

対 象：保健師、助産師、看護師、養護教諭、教職員、医師、カウンセラー、その他（保健、医療、教育、福祉関係者等）

内 容：講義 I 「避妊と性感染症予防の基礎知識」

講義 II 「学校で教える避妊と性感染症予防」

講義Ⅲ「地域の指導者による避妊と性感染症予防教育」

まとめ・討論

講師：本会クリニック所長

いえさか産婦人科医院副院長

根室市立北斗小学校養護教諭

独立行政法人労働者健康福祉機構青森労災病院産婦人科部長

川口子どもネットワーク世話人代表

ウイメンズクリニック・かみむら院長

ハートブレイク代表

慶愛病院院長

愛知県立安城高等学校養護教諭

千葉大学講師

東京都立第二商業高等学校養護教諭

香川県看護協会健全母性衛育成理事

大東学園教育研究所所長・中央大学講師

やすひウイメンズヘルスクリニック院長

さいたま市保健所地域保健課主査

北村 邦夫

家坂 清子

大沼 峰子

片桐 清一

金子 由美子

上村 茂仁

黒瀬 久美子

真井 康博

杉村 直美

関口 久志

高橋 裕子

真鍋 由紀子

丸山 慶喜

安日 泰子

渡辺 好恵

4. 国際連合創設 60 周年記念 2005 年「世界人口デー」特別シンポジウムの開催

本会、(財) 家族計画国際協力財団 (JOICFP) 及び人口問題協議会の主催で開催した。

期 日：7 月 7 日 (木)

会 場：日本プレスセンター (東京都)

参加者：170 名

後 援：国際家族計画連盟 (IPPF)、国連人口基金 (UNFPA)

協 力：(財) アジア人口・開発会議、NPO 法人 2050

テーマ：女性と健康そして開発を考える

内 容：対談「有森裕子国連人口基金親善大使アフリカ報告」

話し手：国連人口基金親善大使

有 森 裕 子

聞き手：ジョイセフ常任理事・事務局長

石 井 澄 江

シンポジウム「女性と健康そして開発を考える」

コーディネーター：

アジア人口・開発協会常務理事・事務局長

尾 崎 美千生

パネリスト：国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所長

池 上 清 子

ジャーナリスト

竹 信 三恵子

(社) 日本家族計画協会会長

松 本 清 一

5. 「第9回 加藤シヅエ賞 授賞式」の開催

本会、(財) 家族計画国際協力財団 (JOICFP)、国際家族計画連盟 (IPPF) の共催で 2005 年「世界人口デー」の一環として開催した。

期 日：7月7日 (木)

会 場：日本プレスセンター (東京都)

受賞者：「富士見産婦人科病院被害者同盟」(埼玉県)

授賞式：1) 選評と励ましのことば：審査委員代表 目 黒 依 子

2) 楯と奨励金の授与

3) 受賞のことば「富士見産婦人科病院被害者同盟」代表 小 西 熱 子

審査員：(順不同)

上智大学教授 目 黒 依 子

(財) アジア女性交流・研究フォーラム理事長 三 隅 佳 子

ジャーナリスト 竹 信 三 恵 子

弁護士 林 陽 子

東京厚生年金病院看護師長 宮 子 あ ず さ

6. 第10回「松本賞」授賞式の開催

わが国のリプロダクティブ・ヘルス、特に家族計画・避妊・思春期保健分野で功績を上げた第一人者に授与した。

期 日：平成 18 年 3 月 27 日 (月)

会 場：グランドヒル市谷 (東京都)

受賞者：東京大学医学部教授・(社) 日本産科婦人科学会理事長 武 谷 雄 二

選考委員：(社) 日本産科婦人科学会 武 谷 雄 二

(社) 日本産婦人科医会 清 川 尚

(財) 家族計画国際協力財団 近 泰 男

(社) 日本不妊学会 岡 村 均

本会会長 松 本 清 一

7. 平成 17 年度健やか親子 21 全国大会(母子保健家族計画全国大会)の開催

期 日：10月27日 (木)

会 場：奈良県文化会館 (奈良市)

主 催：本会、厚生労働省、奈良県、奈良市、(社福) 恩賜財団母子愛育会、

(社) 母子保健推進会議、平成 17 年度健やか親子 21 全国大会実行委員会

後 援：健やか親子 21 推進協議会他

参加者：989 名

テーマ：「子どもの笑顔は未来への遺産～育もう かけがえのない命、地域の絆～」

内 容：式典 (1) あいさつ 厚生労働大臣、奈良県知事、奈良市長、(社福) 恩賜財団母子愛育会会長、(社) 日本家族計画協会会長、(社) 母子保健推進会議会長

(2) 表 彰 厚生労働大臣表彰
(社福) 恩賜財団母子愛育会会長表彰
(社) 日本家族計画協会会長表彰
(社) 母子保健推進会議会長表彰

(3) 来賓祝辞

(4) 謝 辞

(5) 次期開催県あいさつ 高知県

特別講演「修験道に学ぶ 子育てのありよう」

講師：金峯山修験本宗宗務総長・総本山金峯山寺執行長 田 中 利 典

シンポジウム「今こそ地域の母子保健システムの中に虐待予防を」

基調報告・コーディネーター

大阪人間科学大学教授「こころの子育てインターネット関西」事務局長

原 田 正 文

シンポジスト

奈良県立医科大学教授

飯 田 順 三

徳永家族問題相談室室長

徳 永 雅 子

ルポライター・フリージャーナリスト

北 村 年 子

日本家族計画協会会長表彰者及び団体：(41名と2団体)

〈北海道〉坂部 道子 (母子保健推進員)	〈青 森〉川村 幸子 (助産師)
〈岩 手〉上野シン子 (助産師)	〈宮 城〉佐藤美恵子 (助産師)
〈秋 田〉本間美佐子 (保健師)	〈山 形〉横山 洋子 (助産師)
〈茨 城〉照沼美代子 (保健師)	〈福 島〉阿部 智子 (助産師)
〈栃 木〉矢板橋チヅ子 (保健師)	〈群 馬〉福田 ヤス (助産師)
〈神奈川〉池田 久子 (助産師)	〈新 潟〉八木マツノ (助産師)
〈石 川〉笠松美恵子 (看護師)	〈福 井〉熊谷 晶子 (保健師)
〈長 野〉白金さかゑ (助産師)	〈静 岡〉田山 恵子 (栄養士)
〈愛 知〉藤田 宏之 (医 師)	〈三 重〉濱地 祐子 (助産師)
〈滋 賀〉大江イツ子 (助産師)	〈兵 庫〉荒堀ふみゑ (助産師)
〈奈 良〉吉川 三枝 (助産師)	〈和歌山〉中島シゲ子 (母子保健推進員)
〈島 根〉加瀬部洋子 (助産師)	〈岡 山〉松田 尚子 (助産師)
〈広 島〉藤本 浩子 (保健師)	〈愛 媛〉渡部 節子 (保健師)
〈大 分〉大塚ユキ子 (助産師)	〈鹿児島〉小原 静香 (助産師)

〈沖 縄〉豊里 ハル (助産師)	〈千葉市〉佐久間早苗 (保健師)
〈横浜市〉仲 かよ (助産師)	〈川崎市〉高山 富恵 (助産師)
〈名古屋市〉鈴木 玲子 (助産師)	〈大阪市〉柏 悦子 (助産師)
〈神戸市〉中井 恭子 (助産師)	〈広島市〉藤井 佳子 (医 師)
〈浜松市〉間渕 絹子 (助産師)	〈松山市〉池下 増美 (保健師)
〈鹿児島市〉久永 房子 (助産師)	〈尼崎市〉河本 潤子 (医 師)
〈本部推薦〉齋藤 麗子 (医 師)	〈本部推薦〉高村 寿子 (大学教授)
〈富 山〉 母乳育児をすすめる会	
〈さいたま市〉 社団法人日本助産師会埼玉県支部浦和助産師会	

8. 第90回受胎調節実地指導員認定講習会の開催

期 日：8月22日(月)～26日(金) 5日間

会 場：こまばエミナース(東京都)

対 象：保健師、助産師、看護師

受講者：101名

内 容：講義「家族計画の目的と運動史」

講義「母体保護法と関連法規」

講義「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」

講義「世界・日本の人口」

講義「避妊法総論Ⅰ・Ⅱ」

講義「妊娠の成立・授精・受胎」

講義「不妊」

グループ討議

講義「セクシュアリティ男女の性一」

講義「避妊法各論一バリア法一」

実習「クリニックの実際と避妊指導の実習」

講義「人工妊娠中絶」

講義「避妊法各論一IUD・ピル・不妊手術・他一」

演習「GATHER法を使った避妊指導」

講義「性感染症」

試験

試験解答

まとめ

講 師：本会クリニック所長

元本会参与

愛育病院産婦人科部長

北 村 邦 夫

芦 野 由利子

安 達 知 子

国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長	大川 玲子
聖路加国際病院産婦人科部長・生殖医療センター所長	佐藤 孝道
国立社会保障・人口問題研究所情報調査分析部長	佐藤 龍三郎
橋本助産院助産師	橋本 初江
百合レディースクリニック院長	丸本 百合子
本会理事長	近 泰男
本会専務理事	原 澤 勇
本会クリニック相談員	高塚 美沙子
同	中村 美由紀
同	羽田 真里子

9. 思春期クリニック（オープンハウス）の運営

厚生労働省の助成によりクリニック部門、思春期地方クリニック及び妊娠について悩んでいる者に対する相談援助等事業を行った。東京都から生涯を通じた女性の健康支援事業の一環として電話相談を中心に「不妊ホットライン」と「女性のための健康ホットライン」を運営した。また企業の協力を得て「OCサポートコール」と「ピルサポートデスク」も運営した。

(1) クリニック部門

診療日：毎週火曜日・金曜日、第2土曜日

担当医：北村 邦夫 本会クリニック所長

岩室 紳也 (社) 地域医療振興協会ヘルスプロモーション

研究センター長(泌尿器科担当)

米沢 宏 慈友クリニック(精神科担当)

担当助産師：中村 美由紀、高塚 美沙子 他10名

受診者人数：産婦人科 初診 245件

再診 1,860件

合計 2,105件

泌尿器科 初診 12件

再診 101件

合計 113件

精神科 初診 6件

再診 10件

合計 16件

(2) 電話相談部門

1) 思春期保健相談（思春期・FPホットライン）

相談日：月曜日～金曜日

相談員：羽田 真理子、井上 律子 他20名

相談件数： 6,964 件（男性 3,745 件、女性 3,219 件）

2) 不妊専門相談センター（東京都・不妊ホットライン）

＊Ⅶ. 不妊相談参照

3) 性健康支援センター（東京都・女性のための健康ホットライン）

相談日：月曜日～金曜日

相談件数：634 件（女性 634 件）

4) ピル関連相談

相談日：月曜日～金曜日

相談員：星 弘美他 20 名

相談件数：4,129 件

10. 地方における思春期クリニックの運営

厚生労働省の助成を得て、地方における思春期のモデルクリニックとして運営した。

- | | |
|--------------------------|---------|
| (1) 慶愛病院 | 北海道帯広市 |
| (2) 医療法人耕仁会 札幌太田病院 | 北海道札幌市 |
| (3) 長池産婦人科 | 宮城県仙台市 |
| (4) 針生産婦人科内科クリニック | 秋田県秋田市 |
| (5) 青森労災病院 | 青森県八戸市 |
| (6) 医療法人帯経会 大草レディースクリニック | 栃木県氏家町 |
| (7) 医療法人清和会 いえさか産婦人科医院 | 群馬県前橋市 |
| (8) 岩倉病院 | 東京都江戸川区 |
| (9) 関根産婦人科医院 | 東京都練馬区 |
| (10) 丸山産婦人科 | 長野県長野市 |
| (11) 石川クリニック | 兵庫県神戸市 |
| (12) 三宅産婦人科内科医院 | 大阪府大阪市 |
| (13) 北九州津屋崎病院青春期内科 | 福岡県福津市 |
| (14) 宮崎クリニック | 静岡県富士市 |
| (15) ウイメンズクリニック・かみむら | 岡山県岡山市 |
| (16) 中山産婦人科 | 埼玉県熊谷市 |
| (17) 高橋ウイメンズクリニック | 千葉県千葉市 |
| (18) 河野産婦人科クリニック | 広島県広島市 |
| (19) 岡田クリニック | 山口県長門市 |
| (20) 医療法人西口クリニック婦人科 | 福島県福島市 |
| (21) 東クリニック | 東京都渋谷区 |
| (22) 安藤ゆきこレディースクリニック | 福岡県北九州市 |
| (23) 小栗産婦人科 | 愛知県春日井市 |

(24) 弘前レディースクリニックはすお	青森県弘前市
(25) やすひウイメンズヘルス CL	長崎県長崎市
(26) 真能クリニック	東京都小平市
(27) 羽島市民病院	岐阜県羽島市
(28) 岩手県立大船渡病院	岩手県大船渡市
(29) レディースクリニックひまわり小笹産婦人科	鳥取県倉吉市

11. 妊娠について悩んでいる者に対する相談援助等事業の運営

厚生省の助成を得て本会クリニックを含む全国4施設を指定して、助産師による妊娠について悩んでいる男女に医学的・精神的・社会的な問題について相談・援助を行った。

(1) 村口きよ女性クリニック	仙台市
(2) 池川クリニック	横浜市
(3) やびく産婦人科・小児科	沖縄県北谷町
(4) (社) 日本家族計画協会市谷クリニック	東京都

東京都における活動内容

- 1) 助産師による相談事業 165件
- 2) 講師派遣活動

平成17年

7月4日	七林小学校保護者	50人
11月21日	私立高輪高等学校1年生	207人
12月1日	川口市立川口高等学校2年生	321人
12月13日	東京都立農産高等学校1年生	147人

平成18年

1月21日	埼玉いのちの電話16期生	21人
2月3日	東京都立向島高等学校定時制	40人
3月6日	江戸川区立篠崎中学校3年生	126人
3月14日	杉並区立荻窪中学校3年生	112人
3月20日	東京都立市ヶ谷商業高等学校1・2年生	250人

合計 1,274人

- 3) 制作物・リーフレット

「心配なときは放つといちゃダメ！婦人科編」

12. 本会クリニックの講師派遣活動実績

5月14日	栃木県母性衛生学会	学会員	150人
5月22日	東京母性衛生学会	学会員	300人
6月29日	日本大学豊山中学校	中学生	724人

7月11日	埼玉県産婦人科医会東部地区勉強会	産婦人科医師	40人
7月13日	鹿児島県保健福祉部健康増進課	高校生、一般	600人
7月20日	佐久ロータリークラブ	中学生	550人
7月21日	須坂市役所保健センター	中学生	450人
10月12日	磐田東高等学校	高校生	1,067人
10月22日	日本シエーリング(株)	産婦人科医会会員	70人
10月22日	福岡県産婦人科医会	会員	100人
10月29日	(社)埼玉県看護協会	看護協会関係者	50人
11月10日	明治学院大学健康相談所	大学生	100人
11月16日	県内保健福祉事務所 児童家庭支援チーム指導者、保護者		200人
11月17日	千葉県児童家庭課思春期保健担当者		50人
11月19日	埼玉県産婦人科医会後期学術集会	産婦人科医師	100人
11月27日	子持村役場	学生、一般	500人
12月3日	愛媛県健康増進センター	一般	250人
12月4日	松江市健康福祉センター	一般	200人
平成18年			
1月18日	宮城県気仙沼保健福祉事務所	教諭、保護者、保健担当者	100人
1月25日	日本シエーリング(株)	婦人科担当MR	80人
2月2日	渋川市立渋川中学校	中学生、職員	400人
3月18日	ぐんまこども相談センター思春期の子をもつ親		300人
3月25日	“人間と性”教育研究協議会京都サークル会員、一般		100人
合 計			6,481人

13. 包括的啓発（アドボカシー）事業

- (1) 5月11日、参議院少子高齢社会に関する調査会に、本会北村邦夫常務理事が参考人として招致され、わが国の少子化対策に対する提言を求められた。
- (2) 自由民主党「過激な性教育・ジェンダー教育実施調査プロジェクトチーム」（座長 安倍晋三幹事長代理）が行っているインターネット調査での調査内容の誤りを指摘し、調査内容の修正あるいは中止を求める要望書を本会、日本産婦人科医会、日本助産師会、家族計画国際協力財団と連名で5月24日座長に直接手渡した。その3日後、5月27日自由民主党では、この要望を受け入れて修正した。
- (3) 警察庁は性犯罪被害者に対する医療援助事業を来年度（平成18年度）から実施することとなった。本会は事業計画にあたり相談に応じていたが、結果として緊急避妊や中絶手術の費用を全額負担する方針を固めた。

14. 冊子「お産の後のあなたと赤ちゃんの健康」無償配布事業

人工妊娠中絶の防止のために日本自転車振興会の補助を得て 237,000 部を制作し、日本産婦人科医会の協力により会員施設を通じて第 1 子出産後の母親に無償配布した。また市町村などの地方自治体からの配布希望を募り、出産後の母親に無償配布した。

II 思春期保健

1. 思春期保健セミナーの開催

厚生労働省、文部科学省、開催県並びに開催県の教育委員会の後援、日本思春期学会の後援・指導と認定により開催した。

対 象：保健師、助産師、看護師、医師、養護教諭、看護教員、教職員、児童指導員、
カウンセラー、少年補導員、警察官等、保健・医療・教育・福祉・司法関係者

[コース I] (総論編)

第 47 回 期 日：6 月 17 日 (金) ～19 日 (日)

会 場：沖縄産業支援センター (沖縄県)

受講者：75 名

第 48 回 期 日：7 月 22 日 (金) ～24 日 (日)

会 場：全共連ビル (東京都)

受講者：357 名

第 49 回 期 日：8 月 11 日 (木) ～13 日 (土)

会 場：大阪国際交流センター (大阪市)

受講者：317 名

内 容：講義「思春期リプロ・ヘルス概論」

講義「思春期と学校性教育」

講義「精神医学の基礎知識」

講義「セクシュアリティ 性の健康 性の権利」

講義「思春期の心理」

講義「思春期男子の生理」

講義「思春期の問題行動」

講義「乳幼児と思春期」

講義「思春期と家庭社会」

講義「思春期女子の生理」

講義「思春期のヘルスプロモーションとエンパワーメント」

まとめ

[コースⅡ] (各論編・コースⅠ修了者)

第39回 期 日：9月17日(土)～19日(月)

会 場：全共連ビル(東京都)

受講者：263名

第40回 期 日：10月21日(金)～23日(日)

会 場：大阪国際交流センター(大阪市)

受講者：258名

内 容：講義「思春期婦人科相談」

講義「メディアと思春期」

講義「性の悩み相談」

講義「STI」

講義「思春期健康教育とピアカウンセリング」

講義「思春期泌尿器科相談」

講義「思春期精神保健相談」

講義「若年妊娠の問題と対応」

講義「思春期心療内科相談」

講義「家族への対応」

講義「非行への対応」

試験

まとめ

[コースⅢ] (実践編・コースⅡ修了者)

第48回 期 日：12月2日(金)～4日(日)

会 場：伊良湖ビューホテル(愛知県)

受講者：178名

第49回 期 日：平成18年1月7日(土)～9日(月)

会 場：成田ビューホテル(千葉県)

受講者：244名

内 容：講義「避妊法の実際」

講義「面接の技術」

講義「自己啓発の方法」

実習

全体研修会

グループ実習

講義「婦人科外来での問診の取り方」
講義「泌尿器科疾患の検査と治療の進め方」
電話相談実習
総合実習
総まとめ

[上級コース]

第6回 期 日：平成18年2月17日（金）～19日（日）
会 場：成田ビューホテル（千葉県）
受講者：112名
内 容：課題別研修 ①～⑤
全体研修会
特別講演
全体発表
まとめ

[思春期保健セミナー講師]

本会会長	松 本 清 一
目白大学教授	内 山 絢 子
本会クリニック所長	北 村 邦 夫
東京女子医科大学名誉教授	黒 島 淳 子
羽島市民病院産婦人科	荒 堀 憲 二
東邦大学名誉教授	白 井 將 文
自治医科大学看護学部教授	高 村 寿 子
千葉大学教育学部名誉教授	武 田 敏
東京学芸大学教授	福 富 護
筑波大学人間総合研究科助教授	松 崎 一 葉
東峰婦人クリニック院長	松 峯 寿 美
北九州津屋崎病院副院長	森 崇

2. 第5回思春期ピアカウンセリング・コーディネーター研究集会の開催

厚生労働省、文部科学省、(社)日本助産師会、(財)日本性教育協会、(社)母子保健推進会議、(社)全国保健センター連合会の後援で開催した。

期 日：7月8日（金）～10日（日）

会 場：グランパーク（東京都）

対 象：保健師、助産師、思春期ピアカウンセリング事業に関心のある者

受講者：22名

内容：講演Ⅰ「健やか親子21の推進方策」

講演Ⅱ「思春期保健の現状と課題」

講演Ⅲ「思春期健康教育の質的転換への取り組み～今、なぜピアカウンセリング手法なのか」

グループワークⅠ「思春期ピアカウンセリング実践展開に向けて（Ⅰ）、（Ⅱ）」

フォーラム「思春期ピアカウンセリング取り組みの実際～先駆的取り組みの紹介」

講演・実習「若者とフレンドリーな関係を結ぶために～ピアカウンセリング・マインドとベーシックスキルを学ぶ」

全体シェアリング「思春期ピアカウンセリング実践展開に向けて（Ⅰ）、（Ⅱ）」

講師：自治医科大学看護学部教授

高村 寿子

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課主査

田母神 裕美

本学会会長

松本 清一

JFPA若者委員会アドバイザー

渡辺 純一

3. 第2回「思春期ピアカウンセラー養成者」養成セミナーの開催

厚生労働省、(財)日本性教育協会の後援により開催した。

期日：前期コース 7月29日(金)～8月2日(火)「4泊5日」

後期コース 平成18年1月21日(土)～22日(日)「1泊2日」

会場：前期 クロス・ウエーブ船橋(千葉県)

後期 クロス・ウエーブ船橋(千葉県)

受講者：前期コース 22名

後期コース 23名

内容：「前期コース」

講義「グループダイナミックスの基本知識」

演習「構成的エンカウンター演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」

講義「ピアカウンセリング理論」

講義「8つの誓約」

ピアカウンセリングスキル「アクティブ・リスニング」

実習「コ・カウンセリング実習と振り返り」

講義「小集団ピアカウンセリングの実際」

実習「構成的エンカウンターの実習発表」

講義「ピアカウンセリング事業の位置付けと展開」

講義「セクシュアリティ総論Ⅰ、Ⅱ」

講義「ピアカウンセリング事業の目的と具体的な展開」

講義「思春期精神医学の領域から」
 講義「思春期のセクシュアリティ」
 講義「ピアカウンセラー養成カリキュラムの理解と教育方法」
 講義「性感染症と HIV/AIDS」
 試験
 パネルディスカッション

「後期コース」

活動報告と情報交換
 演習「エンカウンター」
 討論と発表「ピアカウンセラー養成に関する課題の解決に向けて」
 討論「コーディネーターや支援者との連携について」
 環境づくり「ピア研究会の設立、認定制度について、会員募集」

講 師：自治医科大学看護学部教授	高 村 寿 子
井の頭病院看護部看護師	渡 辺 純 一
福島県立医科大学看護学部	石 田 登喜子

4. 第3回思春期保健相談士学術研究大会

本会及びちば思春期研究会が主催、厚生労働省、日本思春期学会、(財)日本性教育協会、日本性科学連合の後援で思春期保健相談士の具体的な活動事例と資質向上のための研鑽の場として開催した。

期 日：6月11日(土)

会 場：千葉市文化センター(千葉市)

受講者：221名

対 象：思春期保健相談士、思春期保健事業関係者

内 容：講演Ⅰ「思春期犯罪の今日像」

座長 至誠会第二病院院長	黒 島 淳 子
--------------	---------

講師 目白大学教授	内 山 絢 子
-----------	---------

講演Ⅱ「学校における思春期性教育の進め方と手法」

座長 東邦大学名誉教授・ちば思春期研究会理事	白 井 將 文
------------------------	---------

講師 千葉大学名誉教授・ちば思春期研究会理事長	武 田 敏
-------------------------	-------

一般学術演題報告

(セッションⅠ)

座長 自治医科大学看護学部教授	高 村 寿 子
-----------------	---------

1 思春期電話相談から見た性の悩み

(社)日本家族計画協会電話相談員・川口助産院	川 口 眞理子
------------------------	---------

2 IT時代のヘルスプロモーション的支援活動

- | | |
|--|---------|
| 上級思春期保健相談士 | 渡 辺 多恵子 |
| 3 人工妊娠中絶を受ける思春期患者とパートナーとの
関係性に配慮した支援～「ピアサロン」を開設して～
村口きよ女性クリニック | 竹 田 理 恵 |
| 4 ピア・エデュケーションによる「生と性の健康教室」の実践
広島県立保健福祉大学 | 藏 本 美代子 |
| 5 大学生による保護者向け思春期講座の試み
順天堂大学医療看護学部・地域看護学 | 臺 有 桂 |
| 6 街頭での実践的な活動による思春期リプロヘルスの普及と啓発
(社) 日本家族計画協会若者委員会 (U-COM) | 森 岡 真 梨 |

(セッションⅡ)

- | | |
|---|---------|
| 座長 北九州津屋崎病院副院長 | 森 崇 |
| 1 実践報告 中学2年生からの課題
特定医療法人社団御上会野洲病院 | 大 槻 知 子 |
| 2 助産師による性教育活動の実際
高山赤十字病院 | 澤 知 美 |
| 3 「いのちと性を伝える出前講座 はぐ」活動報告
はぐ 思春期保健相談士 | 多 川 三紀子 |
| 4 それぞれの立場で参加型性教育の取り組み
(社) 日本助産師会千葉県支部 | 斉 藤 葉 子 |
| 5 茨城県における思春期保健相談士の活動
(社) いはらき思春期保健協会幹事 | 和 田 由 香 |
| 6 九州・沖縄を包括する思春期研究会の立ち上げと展開
九州思春期研究会 | 内 田 美智子 |

5. ピアカウンセリング研修ツアーの実施

日本における思春期保健の推進を図るためアメリカ及びカナダの思春期ピアカウンセラーやピアエデュケーターの活動を視察した。本会からは三橋裕行職員が同行した。

期 日：8月24日(水)～9月1日(木) 9日間

対 象：思春期ピアカウンセラー及び思春期カウンセリング活動に関心のある者

参加者： 19名

内 容：①Option for Sexual Health (ピアカウンセリング研修)

②Youth Co (若者の為の HIV/AIDS 教育を推進する組織) とのミーティング

③Condomania Planet Ahead (若者のコンドーム使用を推進する組織) とのミーティング

④米国ゴールドゲート家族計画協会の視察等

6. ドーラ・ブラーケン氏を囲む会の開催

国際家族計画連盟（IPPF）で若者の問題を担当するドーラ氏を招き、若者対策プログラム、特に研修について意見の交換を行った。

期 日：5月19日（木）

会 場：保健会館新館 セミナールーム（7階）

テーマ：①IPPFは若者のリプロダクティブ・ヘルス/ライツにどう取り組んでいるか
②若者のリプロダクティブ・ヘルス/ライツに関する研修をどう推進しているか、特にピア・エデュケーション/カウンセリングに焦点を当てて

参加者：10名

7. 第5回月経随伴症状とマンスリービクスセミナー～マンスリービクスインストラクター養成講座～の開催

厚生労働省の後援、月経研究会連絡協議会の協力を得て開催した。

期 日：11月19日（土）～20日（日）

会 場：自治労第一会館

受講者：117名

内 容：講義「月経随伴症状とは～PMS・PEMS・月経困難症～」

ワークショップⅠ「月経随伴症状の診断～PMSメモリーを活用して～」

ワークショップⅡ「月経教育の実際～PMSメモリーを活用して～」

ワークショップⅢ「月経のセルフケアを学ぼう」

実技Ⅰ「マンスリービクスを学ぼう（基礎編）」

実技Ⅱ「マンスリービクスを教えよう（実践編）」

まとめ・質疑応答

講 師：本会会長

松 本 清 一

淑徳大学総合福祉学部教授

川 瀬 良 美

東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授

茅 島 江 子

湯澤きよみ音楽体操研究会代表

湯 澤 きよみ

8. 第9回ライフスキル教育セミナー（思春期保健相談士研修会）の開催

日本思春期学会の後援で開催した。

期 日：12月23日（金）

会 場：自治労第一会館（東京都）

対 象：思春期保健相談士、医師、保健師、助産師、看護師、教諭、養護教諭、カウンセラー、保健・医療・福祉・教育関係者等

受講者：175名

内 容：基調講演「ライフスキル、認知と行動の教育」

講義Ⅰ「思春期における認知行動療法」

講義Ⅱ・演習「諸外国のライフスキル教育新情報特に、カナダにおけるライフスキル教育のデザイン」～カリキュラム開発者のためのガイドラインより～

講 師：千葉大学教育学部名誉教授

武 田 敏

北九州津屋崎病院副院長兼青春期内科部長

森 崇

新潟大学教育人間科学部教授

皆 川 興 栄

9. 日本思春期学会への協力

日本思春期学会の運営に関して、会員管理及び会計業務などを行った。

- (1) 第24回日本思春期学会総会及び学術集会に学会事務局として協力した。

学会長：国立保健医療科学院次長

林 謙 治

メインテーマ：思春期のヘルスプロモーション

期 日：8月20日（土）～22日（月）

会 場：国立保健医療科学院（埼玉県）

- (2) 学会誌「思春期学」の発行

第23巻 第1号～4号

- (3) 学会事務局の移転

日本思春期学会の事務局は平成18年2月末日をもって、(株)MAコンベンションコンサルティングに移転した。

10. JFPA 若者委員会「U-COM」(JFPA Youth Committee) の活動支援

リプロダクティブ・ヘルスをテーマに、若者自身によるピアカウンセリングスキルの所得、カウンセリング等の活動を支援した。

役員 委員長 自治医科大学看護学部

小 林 雅 矢

事務局長 東京大学大学院医学研究科

井ノ口 珠 喜

会 計 杏林大学保健学部

岡 田 万里子

庶 務 自治医科大学看護学部

福 田 恵 子

- (1) コンドーム配布イベント第二弾の新宿での開催

期 日：4月17日（日）

会 場：新宿駅東口

内 容：街頭キャンペーン

- (2) 勉強会の開催

期 日：5月15日（日）

会 場：日本女子会館

- 内 容：人を好きになったら？
- (3) ドーラさんを囲む会への参加
期 日：5月19日（木）
会 場：保健会館新館
内 容：ドーラ・ブラーケン氏による世界の若者の活動紹介と質疑応答
- (4) JICA/JOICFP 国際交流への参加
期 日：5月26日（木）
会 場：保健会館新館
内 容：ラポールで若者との近づき方の一例を示した後、パワーポイントを使用してユーコムを紹介した。
- (5) 埼玉大学出張ピア
期 日：6月1日（水）
会 場：埼玉大学
内 容：ユーコム紹介、STIについて、コンドームスキル、ネゴシエイト
- (6) 第3回思春期保健相談士学術研究大会への参加
期 日：6月11日（土）
会 場：千葉市文化センター
内 容：同学術研究大会において森岡会員が『街頭での実践的な活動による思春期リプロ・ヘルスの普及と啓発』と題した発表を行った。また、会場にブースを設置しユーコムの活動紹介を行った。
- (7) 第24回日本思春期学会総会学術集会における活動紹介
期 日：8月21日（日）
会 場：国立保健医療科学院
内 容：ユーコムの活動発表およびブースを出展し、PR活動を行った。
- (8) ユーコムアカデミーの開催
第1回 期 日：10月15日（日）
会 場：日本女子会館
内 容：HIV/AIDSの現状と当事者のサポート
第2回 期 日：11月20日（日）
会 場：日本女子会館
内 容：セクシュアルマイノリティとメンタルヘルス
第3回 期 日：12月1日（木）
会 場：渋谷駅ハチ公前広場
内 容：U-COMエイズキャンペーン 2006 渋谷
- (9) ユーコムパネルの作成
学会などで活動を紹介するためのパネルを作り活用した。

(10) ユーコム・コンドームの作成および配布

ユーコムでは、ジェクス(株)の協力を得て、望まない妊娠を避け、性感染症を防ぎ、性の自己決定力を高めるためのキャンペーン用のコンドームを制作した。ユーコムのメンバーがデザインとメッセージを考え、全国の若者たちが学園祭やエイズ予防のイベント等でこのコンドームを使用する目的で、無料で提供した。

Ⅲ 健康教育

1. 研修事業

第7回健康教育・ヘルスプロモーション実践セミナー～セルフエフィカシー（自己効力感）コースを（財）予防医学事業中央会との共催、（財）健康・体力づくり事業財団、（社）全国保健センター連合会、健康保険組合連合会の後援により開催した。

期 日：10月8日（土）～9日（日）

会 場：グランパーク（東京都）

対 象：保健師、助産師、看護師、養護教諭、教員、栄養士等

受講者：92名

内 容：講義Ⅰ 「ヘルスプロモーションとエンパワーメント」～人生のゴール：QOLの実現を目指す力をつけるために～

体験学習Ⅰ「自分探しはQOL探し・・・」～はじめてのエンカウンターを体験してみよう～

講義Ⅱ 「主体的な行動変容とセルフエフィカシー」～ライフスタイル修正のための新戦略～

講義Ⅲ 「新健康教育プログラムの展開」～準備と各回の進め方～

実践活動紹介

「地域での取り組み」～すすめようNO(脳)卒中にのみや運動

「地域での取り組み」～朝霞市子育てピア支援者研修会から～

「無床診療所での取り組み」～行動変容へのアプローチ～

体験学習Ⅱ・実習Ⅰ

「さあプログラムを実際に体験してみよう」PART 1

自由集会「チャットミーティング」

～どのように取り組むか、みんなで考えよう

体験学習Ⅲ・実習Ⅱ「さあプログラムを実際に体験してみよう」PART 2

「さあプログラムを実際に体験してみよう」PART 3

グループワーク・全体シェアリング「二日間で感じたこと、今後の抱負」

講 師：自治医科大学看護学部教授

高 村 寿 子

新健康教育プログラム開発研究会代表	河村和枝
二宮町福祉保健課保健師	石崎浩子
栃木県県東健康福祉センター保健師	小林智子
朝霞市健康対策課保健師	斉藤久美子
息栖会あきら医院相談員	畠中時子

2. 協力事業

(1) 健康保険組合連合会への協力

健康保険組合連合会からの全面委託を請け「保健事業マネジメント・個別健康教育指導者養成研修」「職場における禁煙支援セミナー」を企画し、全国の健康保険組合ほか関係機関を対象に、研修会運営を行った。

1) 「保健事業マネジメント・個別健康教育指導者養成研修」

期 日：平成18年1月10日（火）～12日（木）

会 場：はあといん乃木坂健保会館（東京都）

受講者：20名

講 師：国立循環器病センター循環器病予防検診部部長	岡 山 明
滋賀医科大学福祉保健医学講座助教授	岡 村 智 教

2) 「職場における禁煙支援セミナー」

期 日：平成18年2月3日（金）

会 場：はあといん乃木坂健保会館（東京都）

受講者：30名

講 師：国立循環器病センター循環器病予防検診部部長	岡 山 明
滋賀医科大学福祉保健医学講座助手	門 脇 崇

(2) 健康保険組合連合会東京連合会への協力

健康保険組合連合会東京連合会の管理職や保健事業担当者を対象に、保健事業や健康教育の進め方を検討する「健康教室」の企画、運営を行った。

1) 41回「健康教室」

期 日：6月2日（木）～3日（金）

会 場：ヒルトン小田原リゾート（神奈川県）

受講生：83名

内 容：講義「上手に検診を受けてがん予防」

講義・実技「フェルデンクライスメソッドを体験してみよう」

実技「森林浴とウォーキング」

講義「職場のメンタルヘルス対策の第一歩はストレス解消から」

講義「生活習慣を改善して高脂血症を予防しよう」

講 師：(財) 東京都予防医学協会総合検診部長	三 輪 祐 一
順天堂大学スポーツ健康科学部名誉教授	武 井 正 子
茨城県立友部病院副院長	荒 木 均
筑波大学臨床医学系内科教授	山 田 信 博

2) 42回「健康教室」

期 日：10月20日（木）～21日（金）

会 場：ヒルトン小田原リゾート（神奈川県）

受講生：79名

内 容：講義「ダンベル体操で健康づくり」
 講義・実技「ヨガを体験してみよう」
 実技「森林浴とウォーキング」
 講義「おいしく食べて血液サラサラ」
 講義「職場で活かせるメンタルヘルス対策」

講 師：早稲田大学スポーツ科学学術院教授	鈴 木 正 成
国際ヨガ協会理事	生 越 陽 子
帝京大学医学部主任教授	寺 本 民 生
(財) 労働科学研究所研究部特別研究員	阿 部 眞 雄

(3) 財団法人社会保険健康事業財団への協力

(財) 社会保険健康事業財団より委託を請け、健診事後指導用オリジナルパンフレット（全19種）「健康相談へようこそ(15種)」「保健師による健診後の健康相談」「大腸の健康は早期発見から」「歯を大切に」「上手に飲もうアルコールと健康」を制作した。健診事後指導用栄養リーフレット（全4種）「食事摂取状況調査結果」「カルシウムは足りていますか」「食事摂取状況調査票」「減塩対策」「食べた分、消費していますか」を制作した。(財) 社会保険健康事業財団概要紹介パネル（全144枚）を制作した。

(4) 財団法人千代田健康開発事業団への協力

(財) 千代田健康開発事業団より委託を請け、「千代田健康手帖」を制作した。

- 1) 千代田健康手帖 120 「噛む喜びをいつまでも～歯周病を予防する～」
- 2) 千代田健康手帖 121 「おいしく食べて血液サラサラ」
- 3) 千代田健康手帖 122 「肩と首の痛みを防ぐ」
- 4) 千代田健康手帖 123 「ストレスに負けない『心』づくり」

(5) 女性と仕事の未来館（財団法人女性労働協会）への協力

働く女性が自身の体について理解を深め、健康に働くための情報を提供することを目的に企画、展示イベントで本会パネルを展示した。

(6) インターネットサイト・携帯サイトの運営

ジョンソン・エンド・ジョンソン（株）のグループ会社で構成するジョンソン・エンド・ジョンソン社会貢献委員会より、インターネットサイト「ウーマンズヘルス・ウェブ」、携帯サイト「ガールズ・ナビ」の運営を委託され、定期的に内容更新を行った。

(7) 介護予防支援事業

主に地方公共団体がおこなう「介護予防支援事業」の経費の一部を助成した。本事業の重要性を認識してもらい、各地域における継続的な実施を目的として実施した。

助成件数：24 件

富里市役所（千葉県）	大栄町役場（千葉県）	山武町役場（千葉県）
茂原市役所（千葉県）	東村保健センター（群馬県）	倉渕村役場（群馬県）
北浦町役場（茨城県）	境町役場（茨城県）	川崎町役場（福岡県）
黒木町役場（福岡県）	安濃町役場（三重県）	尾鷲市役所（三重県）
水沢市役所（岩手県）	山形市保健センター（山形県）	鏡石町役場（福島県）
琴丘町役場（秋田県）	羽生市役所（埼玉県）	
全国土木建築国民健康保険組合（東京都）		春日町役場（愛知県）
白川町社会福祉協議会（岐阜県）		和歌山市役所（和歌山県）
岡山地域地域リハビリテーション広域支援センター（岡山県）		
知夫村役場（島根県）	渡名喜村役場（沖縄県）	

IV 性教育・相談

1. 実践活動は以下項目を参照

* I. 受胎調節

3. 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー～学校と地域を考える～の開催
8. 第 90 回受胎調節実地指導員認定講習会の開催
9. 思春期クリニック（オープンハウス）の運営
12. 本会クリニックでの講師派遣活動実績

2. 第 35 回全国性教育研究大会及び併設第 15 回関東甲信越静性教育研究大会の後援

全国性教育研究団体連絡協議会、関東甲信静性教育研究団体連絡協議会、神奈川県性教育研究団体連絡協議会の主催する標記大会を後援した。

期 日：8 月 3 日（水）～5 日（金）

会 場：川崎市教育文化会館・他

テーマ：「人間と性」～愛と命を育む性教育をめざして～

参加者：750名

V 遺伝相談

1. 研修事業

厚生労働省、日本遺伝カウンセリング学会の後援により開催した。

(1) 遺伝カウンセリングセミナーの開催

1) 第33回基礎コース

期 日：7月21日（木）～24日（日）

会 場：保健会館新館（東京都）

対 象：医師または専門の資格をもち現在遺伝カウンセリングを行っているか、今後行おうとするもの

受講者：31名（延べ受講者数1,045名）

内 容：講義「遺伝相談医師カウンセラー研修会の歴史」

討論「遺伝カウンセリングロールプレイ教材・討論」

講義「遺伝相談と法律」

講義「遺伝カウンセリングと倫理」

講義「遺伝カウンセリングとは」

講義「家系図と実習」

講義「メンデル遺伝と遺伝的病因論」

講義と実習「遺伝形式の推定・実習」

講義「日米遺伝カウンセラーの相違について」

講義と実習「染色体の基礎と実習」

講義「出生前診断」

講義と実習「再発率の基礎と実習」

講義「カウンセリング技術の基礎」

講義「遺伝相談に必要な分子遺伝学」

講義と実習「小奇形の見方と実習」

患者支援団体からの話し

講義「日本国民の遺伝意識と個人情報保護法」

遺伝カウンセリングロールプレイと討論

2) 第33回実践コース

期 日：8月18日（木）～21日（日）

会 場：保健会館新館（東京都）

対 象：医師または専門の資格をもち現在遺伝カウンセリングを行っているか、今後
行おうとするもの

受講者：26名（延べ受講者数 1,032名）

内 容：講義とロールプレイ「先天性代謝異常症と遺伝相談」
講義「ミトコンドリア異常症（病）」
講義とロールプレイ「多因子遺伝」
講義とロールプレイ「がんの遺伝」
講義「ジェノミックインプリンティング」
講義「遺伝カウンセリングに必要な情報収集」
講義「耳鼻科疾患」
講義とロールプレイ「染色体異常」
講義とロールプレイ「血友病の遺伝カウンセリング」
講義とロールプレイ「優性遺伝疾患の遺伝カウンセリング」
講義とロールプレイ「眼科疾患」
講義とロールプレイ「皮膚科疾患」

講 師：（基礎・実践）

恩賜財団母子愛育会	青 木 菊 麿
社会福祉法人 和歌山つくし会桃山療護園	月 野 隆 一
本会遺伝相談センター	新 井 一 夫
聖路加国際病院産婦人科・生殖医療センター	佐 藤 孝 道
東京逡信病院小児科	小 野 正 恵
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	田 村 智英子
北里大学看護学部	前 田 徹
大阪市立総合医療センター小児神経内科	富 和 清 隆
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	千 代 豪 昭
京都大学大学院医学研究科	小 杉 眞 司
日本水頭症協会	柴 田 靖 子
近畿大学大学院遺伝カウンセリングコース	武 部 啓
埼玉県立小児医療センター遺伝科	大 橋 博 文
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	大 山 紀美栄
奈良県立医科大学医学部小児科	田 中 一 郎
国立精神・神経センター武蔵野病院	埜 中 征 哉
烏山眼科医院	福 下 公 子
京都大学医学部附属病院総合診療科	藤 村 聡
山形大学医学部皮膚科	三 橋 善比古
国立がんセンター研究所がん抑制ゲノム研究プロジェクト	村 上 善 則

(2) 遺伝カウンセリングリフレッシュセミナーの開催

1) 第26回「骨系統疾患の遺伝カウンセリング」(軟骨無形成症を中心に)

期 日：6月18日(土)～19日(日)

会 場：全共連ビル(東京都)

対 象：遺伝カウンセリングセミナー修了者、コメディカルのための遺伝カウンセリングセミナー修了者、遺伝カウンセリングに関心のある者他

受講者：78名

内 容：ロールプレイ教材提示及びグループ討論

講義「骨疾患のレントゲン診断総論及び軟骨無形成症の鑑別疾患など」

講義「骨系統疾患の遺伝子解析」

講義と討論「小児科の立場から」

「産婦人科の立場から」

「整形外科の立場から」

講義「遺伝カウンセリングのポイントまたは心理的ケア」

当事者からの話「患者団体から見た軟骨無形成症」

グループ討論

ロールプレイ

講 師：東京都立清瀬小児病院放射線科

西 村 玄

理化学研究所遺伝子多型研究センター

池 川 志 郎

京都大学医学部附属病院小児科

依 藤 亨

聖路加国際病院産婦人科・生殖医療センター

佐 藤 孝 道

静岡県立こども病院整形外科

芳 賀 信 彦

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科

田 村 智英子

つくしの会(全国軟骨無形成症患者・家族の会)

企画運営：

本会遺伝相談センター

新 井 一 夫

東京逓信病院

小 野 正 恵

京都大学大学院医学研究科

小 杉 眞 司

社会福祉法人和歌山つくし会桃山療護園

月 野 隆 一

大阪市立総合医療センター小児神経内科

富 和 清 隆

2) 27回「遺伝性腎疾患の遺伝カウンセリング～多発性嚢胞腎を中心に～」

期 日：平成18年1月21日(土)～22日(日)

会 場：全共連ビル(東京都)

対 象：遺伝カウンセリングセミナー修了者、コメディカルのための遺伝カウンセリング

ングセミナー修了者、遺伝カウンセリングに関心のある者他

受講者：85名（延べ受講者数 1,107名）

内 容：ロールプレイ教材提示及びグループ討論

講義「遺伝性腎疾患の総説～分子遺伝学的解説と症状発症機序～」

講義「常染色体優性遺伝多発性嚢胞腎の臨床症状・合併症」

講義「多発性嚢胞腎の分子標的創薬」

講義「ADPKDの治療（塞栓術）」

講義「常染色体劣性遺伝多発性嚢胞腎」

講義「多発性嚢胞腎の遺伝カウンセリング」

当事者の話し「患者の立場から PKD の会を紹介」

グループ討論

ロールプレイ・総合討論

講 師：日本医科大学第2内科

飯 野 靖 彦

虎ノ門病院腎センター

乳 原 善 文

和歌山県立医科大学小児科

中 西 浩 一

三重大学腎臓内科

堅 村 信 介

帝京大学泌尿器科

堀 江 重 郎

企画運営：

本会遺伝相談センター

新 井 一 夫

東京通信病院

小 野 正 恵

麻布大学名誉教授

石 橋 正 彦

社会福祉法人和歌山つくし会桃山療護園

月 野 隆 一

京都大学大学院医学研究科

富 和 清 隆

聖路加国際病院産婦人科・生殖医療センター

佐 藤 孝 道

(3) コメディカルのための遺伝カウンセリングセミナー

1) 第31回初級コース

期 日：8月4日（木）～7日（日）

会 場：かやの木会館（東京都）

対 象：コメディカル

参加者：79名（延べ受講者数 4,289名）

内 容：講義「遺伝病と共生」

講義「遺伝の専門科（専門家）とは？」

講義「現代遺伝医療情勢について」

講義「遺伝の仕組み・遺伝病はなぜ起こる？」

実習「染色体核板実習」

当事者の話「わが家と遺伝カウンセリング」
 講義「健康な夫婦からどうして遺伝疾患が生まれるか？」
 講義「遺伝病と男と女」
 講義「がん家系ってあるの？」
 講義「出生前診断」
 講義「遺伝病は撲滅すべき？（遺伝病の捉え方）」
 講義「遺伝と倫理」
 講義「ゲノムとは？ 生活習慣病と遺伝子」
 講義「遺伝カウンセリングとは」
 遺伝カウンセリングロールプレイ
 総合討論

講 師：恩賜財団母子愛育会	青 木 菊 麿
社会福祉法人 和歌山つくし会桃山療護園	月 野 隆 一
本会遺伝相談センター	新 井 一 夫
聖路加国際病院産婦人科・生殖医療センター	佐 藤 孝 道
東京通信病院小児科	小 野 正 恵
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	田 村 智英子
大阪市立総合医療センター小児神経内科	富 和 清 隆
お茶の水女子大学大学院人間文化研究科	千 代 豪 昭
烏山眼科医院	福 下 公 子
京都大学大学院医学研究科	藤 田 潤
日本水頭症協会	柴 田 靖 子

2) 第 29 回上級コース

期 日：12月1日（木）～4日（日）

会 場：グランパーク（東京都）

受講者：47名（延べ受講者数 1,853名）

内 容：「ロールプレイ教材提示・グループ討論」

講義「常染色体劣性遺伝」

講義「染色体異常」

講義「遺伝カウンセリングとは（定義、倫理など）」

講義「常染色体優性遺伝」

講義「経験的再発率と再発率の評価」

講義「眼科疾患」

講義「聴覚障害」

講義「近親婚」

講義「小児疾患」
 講義「X連鎖遺伝」
 講義「保因者検索」
 講義「生殖医療と遺伝カウンセリング、出生前診断」
 講義「遺伝カウンセリングにおけるコメディカルスタッフの役割」
 遺伝カウンセリングロールプレイ
 遺伝カウンセリングシステム、総合討論とまとめ

講師：社会福祉法人 和歌山つくし会桃山療護園	月 野 隆 一
本会遺伝相談センター	新 井 一 夫
聖路加国際病院産婦人科・生殖医療センター	佐 藤 孝 道
東京逡信病院小児科	小 野 正 恵
大阪市立総合医療センター小児神経内科	富 和 清 隆
烏山眼科医院	福 下 公 子
神奈川県立こども医療センター産婦人科	山 中 美 智 子
奈良県立医科大学小児科	吉 岡 章
兵庫医科大学病院第2外科	権 藤 延 久
京都大学医学部附属病院総合診療科	藤 村 聡

2. 遺伝相談サービス事業

遺伝カウンセリング及び電話対応を行った。

遺伝カウンセラー：本会遺伝相談センター所長	新 井 一 夫
烏山眼科医院眼科	福 下 公 子
東京逡信病院小児科	小 野 正 恵

(1) 電話受信総数 33 件

内 訳	本会遺伝相談センターカウンセリング紹介	16 件		
	遺伝相談施設一覧の相談施設へ紹介	4 件		
	主治医へ	2 件		
	その他	11 件		
受信内容	近親婚	3 件	近親婚	5 件
	出生前診断	3 件	知的障害	2 件
	染色体異常	2 件	自閉症	2 件
	色覚異常	1 件	多指症	1 件
	ダウン症	1 件	血液型	1 件
	口唇裂	1 件	親子鑑定	1 件
	統合失調症	1 件	ろう啞	1 件
	その他	8 件		

(2) 面接によるカウンセリング	7 件		
内 訳			
学習障害の親族	1 件	染色体検査	1 件
骨形成不全	1 件	近親婚	1 件
その他	3 件		

3. 情報収集事業

遺伝相談に関する内外の図書及び雑誌を購入し、情報収集とその整理及び管理を行った。

(1) 図書購入	国内出版図書	4 冊
(2) 雑誌購入	外国出版雑誌	17 種
	国内出版雑誌	2 種

4. 情報提供事業

遺伝カウンセラーの要望に応じて、遺伝情報の提供を行った。

- (1) 文献資料の作成と配布
- (2) 雑誌購入
- (3) その他

5. 委員会の開催

- (1) 遺伝相談センター専門委員会の開催

期 日：平成 18 年 3 月 11 日（土）

会 場：ルビーホール（東京都）

議 題：1) 平成 17 年度事業報告について

2) 平成 18 年度事業計画について

3) その他

専門委員：青 木 菊 麿	恩賜財団母子愛育会
新 井 一 夫	本会遺伝相談センター
大 澤 真木子	東京女子医科大学小児科
小 野 正 恵	東京通信病院小児科
千 代 豪 昭	お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
月 野 隆 一	社会福祉法人和歌山つくし会桃山療護園
富 和 清 隆	京都大学大学院医学研究科
福 下 公 子	烏山眼科医院
平 原 史 樹	横浜市立大学医学部産婦人科
藤 田 潤	京都大学大学院医学研究科
古 山 順 一	関西看護専門学校
前 田 徹	北里大学看護学部

吉 岡 章 奈良県立医科大学小児科
田 島 貞 子 高崎健康福祉大学短期大学部生活学科

(2) 遺伝相談センター運営委員会の開催

期 日：平成 18 年 3 月 8 日（水）

会 場：保健会館新館

議 題：1) 平成 17 年度事業報告について

2) 平成 18 年度事業計画について

3) その他

運営委員：新 井 一 夫 本会遺伝相談センター所長

近 泰 男 本会理事長

原 澤 勇 本会専務理事

柴 田 昭 二 本会常務理事

北 村 邦 夫 本会市谷クリニック所長

杉 村 由香里 本会市谷クリニック事務長

6. 協力事業

(1) 日本遺伝カウンセリング学会への協力

日本遺伝カウンセリング学会の運営について、会員管理、会計業務などを行った。

1) 平成 18 年 3 月 31 日現在 会員数 799 名

2) 第 29 回日本遺伝カウンセリング学会学術集会の事務局として協力した。

会 長：横浜市立大学大学院生殖生育病態医学(産婦人科学)教授 平 原 史 樹

期 日：5 月 27 日（金）～29 日（日）

会 場：はまぎんホール ヴィアマール（横浜市）

3) 学会誌「日本遺伝カウンセリング学会誌」の発行

第 26 巻第 1 号～第 2 号

4) 学会事務局の移転

日本遺伝カウンセリング学会の事務局は、平成 18 年 1 月 16 日をもって、全国大学生活協同組合連合会・(株) 大学生協事業センターに移転した。

(2) 地方で開催する研修会、講習会への積極的な協力、支援を行った。

岩手県：10 月 1 日（土）～2 日（日）、8 日(土)～9 日（日）

VI 母子保健・子育て支援

1. ブロック別母子保健事業研修会の開催

本会、開催県、(社)全国保健センター連合会、(社)母子保健推進会議との共催、厚生労働省、(社)日本助産師会、全国母子保健推進員連絡協議会の後援により全国5ブロックで開催した。

(1) 東北・北海道ブロック「北海道札幌市」

期 日：10月14日(金)

会 場：北海道立道民活動センター かでる2・7

受講者：134名

内 容：行政説明「最近の母子保健をめぐる動向」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 関 谷 和 義

基調講演「今、ほんとうに必要な子育て支援とは？」

NPO法人 こころの子育てインターねっと関西代表

大阪人間科学大学教授 原 田 正 文

シンポジウム「育児支援活動の取り組み」

座長・助言 NPO法人 こころの子育てインターねっと関西代表

大阪人間科学大学教授 原 田 正 文

シンポジスト

「妊娠期からの育児支援～行政における母親教室の役割」

札幌市保健福祉局健康衛生部地域保健課 坂 本 智 恵

「ベビーママパパアクアビクス教室を通じた育児支援について」

長沼町福祉課 五十嵐 夕 子

「八雲保健所における育児支援活動」

北海道八雲保健所 岩 本 泉

(2) 関東甲信越ブロック

期 日：11月2日(水)

会 場：栃木県総合文化センター「栃木県宇都宮市」

受講者：111名

内 容：行政説明「最近の母子保健を取り巻く状況」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 斎 藤 慈 子

講演「思春期のダイエットとリプロダクティブ・ヘルス」

国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授

国際医療福祉病院リプロダクションセンター長 柳 田 薫

基調講演「脅かされている若者たちの性～新しい取り組みへの提言～」

(社)日本家族計画協会常務理事・クリニック所長 北 村 邦 夫

シンポジウム「思春期保健における各職域での取り組みについて」

座長 栃木県東健康福祉センター健康福祉部健康福祉課部長補佐兼課長

小川博子

コメンテーター

(社)日本家族計画協会常務理事・クリニック所長 北村邦夫

シンポジスト

「小・中・高生と地域・学校がともに考え、歩む「生」と「性」～連携
における保健師の役割～」

那須塩原市黒磯保健センター係長 高橋孝子

「心を育て心を支える～栃木県南健康福祉センター

の思春期保健向上への取り組み～」

栃木県南健康福祉センター健康福祉部

健康福祉課母子保健福祉担当主任

太田由希子

「思春期保健への取り組み～医療の現場から～」

芳賀赤十字病院産婦人科看護師長

渡辺利子

「思春期教育の現状と取り組み」

小山市立小山城南中学校養護教諭

天野康子

(3) 東海・北陸・近畿ブロック

期 日：10月18日(火)

会 場：石川県立中央病院 健康教育館「石川県金沢市」

受講者：127名

内 容：行政説明「最近の母子保健を取り巻く状況」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 長澤真吾

講演「幼児期における発達障害児の支援」

～子どもの困り感に寄り添う支援について～

岡山大学教育学部助教授

佐藤 暁

シンポジウム「発達障害児の育ちを支える支援について考える」

コーディネーター

「岡山市の障害児拠点保育園の取り組み」

岡山大学教育学部助教授

佐藤 暁

シンポジスト

「一人一人の そのまま を受けとめて」

社会福祉法人 慈光福祉会田上保育園保育士

供田真弓

「軽度発達障害のある幼児の支援をとおしてみえてきたもの」

～「できること」からはじめる支援ネットワーク作り～

石川県立平和町養護学校教諭 杉江 哲治
「発達障害児の育ちを支える支援について」
～保護者の気づきと障害受け入れの観点から～
NPO 法人アスぺの会石川 保 護 者

(4) 中国・四国ブロック

期 日：10月21日（金）

会 場：ウエルシティ鳥取「鳥取県鳥取市」

受講者：136名

内 容：行政説明「最近の母子保健を取り巻く状況」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 斎藤 慈子
講演「ちょっと気になる子の子育て支援」

ことばの相談室 ホワイトベル 言語聴覚士 国島 典子
シンポジウム「地域における発達障害児の支援のあり方を考える」

座長 鳥取県立鳥取療育園園長 前岡 幸憲
座長講演「地域における発達障害児の支援」

シンポジスト「母子保健現場における発達心理臨床」

「障害のある子とその親を支える立場から」

鳥取市中央保健センター心理相談員 田丸 尚美

「発達障害児の早期発見・早期支援」

－若桜町5歳児健診と教育分野との連携を通して－

鳥取県若桜町教育委員会指導主事 盛田 恭司

「自閉症・発達障害児の発達支援システム」

－発達支援と保護者支援のあり方－

エール鳥取県自閉症・発達障害支援センター所長 入江 ゆみ子

「自閉症児の地域生活支援」－保護者の願いを中心に－

日本自閉症協会鳥取県支部支部長 乾 和子

(5) 九州ブロック

期 日：11月11日（金）

会 場：NBC ソシア「長崎県長崎市」

受講者：235名

内 容：行政説明「最近の母子保健を取り巻く状況」

厚生労働省雇用均等・児童家庭局母子保健課課長補佐 斎藤 慈子
特別講演「子どもの生活習慣～睡眠・食生活～」

日本子ども家庭総合研究所客員研究員 水野 清子

シンポジウム「子どもの食生活を考えよう

～こころとからだを育む食育のすすめ」

座長 長崎国際大学健康管理部健康栄養学科学科長(教授) 真鍋 祐之

シンポジスト

「地域に根ざした食育推進について」

宮崎県串間市福祉保健課障害児童福祉係栄養士 武田 郁子

「いのち、いただきます」

～食べ物への感謝の気持ちと、食を変える強い意志」

大地といのちの会代表 吉田 俊道

「子どもの心の悲鳴と食行動～その支援とともに」

(社福) カメリア情緒障害児短期治療施設 大村椿の森学園副園長
長野 真基子

2. 県別母子保健指導者研修会の開催

飛騨地域公衆衛生活動研修会の開催

飛騨地域公衆衛生協議会及び岐阜県飛騨地域保健所との共催で開催した。

期 日：7月11日(月)

会 場：飛騨・生活文化センター大会議室

対 象：保健師、福祉関係者、保育所関係者等

受講者：133名

内 容：講演「子どもの生活リズムについて」～食習慣を中心として～

日本子ども家庭総合研究所客員研究員 水野 清子

3. 母子保健指導部の活動支援

在宅の保健師、助産師などを会員にして、研修事業、並びに大規模小売店などへの母子保健相談員の派遣事業を行った。

研修日程：毎月第2火曜日

第341回 4月12日

講 義：「この人と出会えて良かったと言われる専門職の意味」

講 師：詩人・エッセイスト 浜 文子

第342回 5月10日

講 義：「乳幼児の結核対策と現状」

講 師：神奈川県衛生部医療整備課 中 沢 明 紀

第343回 6月14日

講 義：「ことばが伸びるじょうずな子育て」

講 師：言語聴覚士 中 川 信 子

- 第 344 回 7 月 12 日
講 義：「乳幼児精神保健」
講 師：慶應義塾大学医学部小児科講師 渡 辺 久 子
- 第 345 回 9 月 13 日
講 義：「アレルギーについて（食物アレルギー、喘息、皮膚疾患のスキンケア）」
講 師：国立成育医療センター総合診療部 赤 澤 晃
- 第 346 回 10 月 11 日
講 義：「子どもの遊び、おもちゃ、わらべ歌（0～1 歳児対象）」
講 師：江東区白河かもめ保育園主任保育士、作曲家 吉 澤 隆 幸
- 第 347 回 11 月 8 日
講 義：「最近の母乳育児支援」
講 師：聖路加国際病院助産師 井 村 真 澄
- 第 348 回 12 月 13 日
講 義：「摂食機能発達」
講 師：昭和大学歯学部教授 向 井 美 恵
- 第 349 回 平成 18 年 1 月 10 日
講 義：「更年期の過ごし方」
講 師：東峯婦人クリニック院長 松 峯 寿 美
- 第 350 回 平成 18 年 2 月 14 日
講 義：「軽度発達障害について」
講 師：筑波大学心身障害系教授 宮 本 信 也
- 第 351 回 平成 18 年 3 月 14 日
講 義：「最近の家族計画情報（事例を踏まえて）」
講 師：本会クリニック所長 北 村 邦 夫

VII 不妊相談

東京都より一部助成を得て電話相談を中心に運営した。

名 称：東京都・不妊ホットライン

相談日：火曜日

相談員：赤 城 恵 子、堀 弘 子他

相談件数： 555 件

VIII 中高年女性保健

1. 32回中高年女性保健セミナーの開催

厚生労働省、日本更年期医学会の後援により開催した。

期 日：平成18年1月27日（金）～29日（日）

会 場：全共連ビル（東京都）

受講者：124名

内 容：講義「中高年女性の健康管理と保健指導—更年期をいきいきと過ごすには—」

講義「更年期医療—ホルモン補充療法、漢方治療等—」

講義と実技「中高年期のフィットネスプログラム—」

講義「女性の排尿障害—不具合の原因と予防—」

講義「乳房の疾患」

講義「中高年期のセクシュアル・ヘルス」

講義「中高年期に気をつけたい子宮と卵巣の疾患」

講義「中高年女性の心のケア」

講義「介護予防—骨粗鬆症対策も含めてQOLを考える—」

事例発表「女性の健康づくりに関する事業の実際」

講 師：東京医科歯科大学大学院生殖機能協関学主任教授

麻 生 武 志

小山嵩夫クリニック院長

小 山 嵩 夫

順天堂大学名誉教授

武 井 正 子

三井記念病院産婦人科医長

中 田 真 木

帝京大学医学部助教授

池 田 正

国立病院機構千葉医療センター産婦人科医長

大 川 玲 子

コスモス女性クリニック院長

野 末 悦 子

ソニー人事センター

箕 輪 尚 子

東京都老人総合研究所副所長

鈴 木 隆 雄

2. 女性の健康づくりセミナー～更年期を理解する～の開催

更年期と加齢のヘルスケア研究会、日本更年期医学会、全国市町村保健活動協議会
(財)女性労働協会、(財)予防医学事業中央会の後援で開催した。

期 日：7月31日（日）

会 場：電設工業健康保険組合「へるすぴあ」（東京都）

対 象：保健師、看護師、栄養士、薬剤師、看護教員等

受講者：98名

内 容：講義「中高年女性の健康教育・更年期障害の基礎知識とその治療」

講義「肌の乾燥と女性ホルモン」

特別講演「子宮がん検診の考え方」

講師：小山崇夫クリニック院長	小山崇夫
コスモス女性クリニック院長	野末悦子
愛育病院産婦人科部長	安達知子

3. メディアセミナー「進化する女性診療～医療におけるコラボレーション～」

診療科や病院の枠を越えて一つの疾患を共同で診療する最新の医療動向について紹介した。

期 日：4月19日（火）

会 場：女性と仕事の未来館（東京都）

参加者：23名

内 容：講義「女性患者の視点に立った最新の医療体制」

「女性の尿失禁診療における病診連携の開始と今後の可能性」

講師：医療法人鉄蕉会 亀田メディカルセンター主任産婦人科部長	清水幸子
	泌尿器科部長 太田智則
社会福祉法人恩賜財団東京都済生会中央病院泌尿器科部長	中村 聡
パークサイド広尾レディースクリニック院長	角 ゆかり

4. 生涯を通じた女性の健康支援事業

主に地方公共団体がおこなう中高年を対象とした「生涯を通じた女性の健康支援事業」の経費の一部を助成した。主催団体の意識の向上や次年度以降の定期的事業計画としてもらうことを目的として行った。

助成先：30件

上福岡市保健センター（埼玉県）	毛呂山町保健センター（埼玉県）
栗橋町保健センター（埼玉県）	蕨市保健センター（埼玉県）
羽生市役所（埼玉県）	越谷市立保健センター（埼玉県）
本庄市役所（埼玉県）	幸手市保健福祉総合センター（埼玉県）
台東区役所（東京都）	練馬区役所（東京都）
東大和市保健センター（東京都）	全国土木建築国民健康保険組合（東京都）
北浦町保健センター（茨城県）	東海村総合福祉センター（茨城県）
笠間市役所（茨城県）	八幡市役所（京都府）
大山崎町保健センター（京都府）	亀岡市保健センター（京都府）
流山市保健センター（千葉県）	山武町保健センター（千葉県）
草津町総合保健福祉センター（群馬県）	東村保健センター（群馬県）
須坂市保健センター（長野県）	南箕輪村役場（長野県）
飯館村役場（福島県）	二宮町役場（栃木県）
笛吹市役所（山梨県）	安富町役場（兵庫県）

IX STD 予防

* I. 受胎調節

3. 指導者のための避妊と性感染症予防セミナー～学校と地域との連携を考える～の開催を参照
8. 90回受胎調節実地指導員認定講習会の開催を参照
9. 思春期クリニックの運営を参照

* II. 思春期保健

1. 思春期保健セミナーの開催を参照

X 性暴力・児童虐待・子どもの事故予防

1. 第12回乳幼児の事故予防セミナーの開催

厚生労働省、国土交通省、(社)日本助産師会、(社)全国ベビーシッター協会、日本保育園保健協議会、(社)母子保健推進会議の後援、子どもの安全ネットワーク・ジャパンの指導を得て開催した。

期 日：平成18年1月28日（土）～29日（日）

会 場：保健会館新館（東京都）

対 象：保健師、助産師、看護師、保育士

受講者：25名

内 容：講義「子どもの事故予防とチャイルドシート」

実習「いろいろなチャイルドシートを正しく装着するための実習」

講義「子どもの事故の現状と対策」

講義「小児事故予防戦略の企画立案と評価方法」

講義「子どもの事故の情報収集と分析」

総括・質疑「子どもの事故予防の進め方」

講 師：緑園こどもクリニック院長

山梨大学大学院医学工学総合研究部保健学教授

誠仁会伊藤病院院長

誠仁会伊藤病院事務部長

山 中 龍 宏

山 縣 然太朗

伊 藤 将 史

加 藤 尚 子

2. 性暴力・児童虐待

- * VI 母子保健・子育て支援参照

X I 機関紙の発行

機関紙「家族と健康」の発行：第 613 号（2005 年 4 月号）～624 号（2006 年 3 月号）

対 象：行政（厚生労働省、全国県、保健所、市町村など）、事業所関係（企業体、健康保険組合、社会保険関係など）、医療機関、学校関係などの医師、保健師、助産師、看護師、教諭、養護教諭、産業衛生関係者、健康教育関係者など

X II 思春期クリニック及び緊急避妊クリニックネットワークの構築

全国の産婦人科、約 1,500 施設と緊急避妊のネットワークを構築した。

X III 各種教材の企画・開発・頒布事業

ヘルスケア製品並びに指導教材の開発・頒布活動の展開として下記新教材の開発とリニューアル、及び頒布活動を行った。

1. ヘルスケア製品

生涯を通じた女性の健康支援事業の一環として中高年女性の QOL 維持・向上を図るため、ヘルスケア用品「リューブゼリー」・「メノケアモイストゼリー」に関連する資料・文献等を病医院はじめ関係先に配布し社会的有用性の PR を積極的に努めた。

また、産科・婦人科等の医療機関において使用される超音波診断装置のプローブ用カバーについて、本会が専用品として開発した「プローブフィット」の医療機関への情報提供・PR を実施した。

2. 各種指導用教材

以下の教材の制作と頒布を行った

(1) 健康メモ

乳幼児保健編 2 点、栄養シリーズ（成人編）15 点、他 1 点

(2) パンフレット

第 2 回男女の生活と意識に関する調査報告書、新版・PMS メモリー、ヘルスアップシリーズ 7 点、他 2 点

(3) 健康手帖

おいしく食べて血液サラサラ他 3 点

(4) 健康教育用視聴覚教材

性教育教材 2 点、クイックメディアシリーズ 35 点、他 1 点

(5) パネル

人体シリーズ 22 点、食べものゆくえシリーズ 6 点、家族計画シリーズ 12 点

(6) 家族の健康カレンダー

(7) 母子健康手帳

(8) 2006 年度版保健指導ノート

XIV 国際協力

本会が長年培ってきた思春期保健の経験、経済的自立のノウハウ等を中心に、国際協力機構（JICA）、国際家族計画連盟（IPPF）、家族計画国際協力財団（JOICFP）への協力として各種研修員の受け入れ及び本会からの役職員の派遣を行った。

また地域理事会並びに執行委員会において、本会の国際家族計画連盟（IPPF）への正式加盟課題に関連し、わが国において公益法人の抜本的な改革を目指す公益法人改革法案が検討されつつあることを説明し、新制度を見据えて検討することを報告した。

また 17 年度は台湾の婦幼衛生協会(Planned Parenthood Association of Taiwan / 台湾家族計画協会)から 12 名の専門家受け入れを行い、思春期保健とその進め方についてわが国での経験と事業の展開を伝えると共に、台湾の状況を知るための相互交流を行った。

1. 本会単独事業

(1) 4 月 11 日(月)～14 日(木)

本会理事小長井春雄を中国・上海市人口計画生育委員会並びに上海市計画生育協会及びその傘下の上海計画生育薬具会社に派遣し、コンドームの有料頒布事業の指導を行った。

(2) 5 月 19 日(木)

国際家族計画連盟（IPPF）で若者の問題を担当するドーラ・ブラーケン氏を招き、若者対策プログラム、特に研修について意見の交換を行った。

(3) 6 月 3 日(金)

JICA 沖縄・沖縄県看護協会の依頼による、ボリビア国・パラグアイ国地域保健指導者コースに参加する地域看護の専門家 10 名の受け入れを行い、本会が展開する思春期保健事業の取り組みを紹介するとともに今後の事業協力について交流を図った。

(4) 9 月 12 日(月)～14 日(木)

台湾婦幼衛生協会思春期保健訪日団（台湾婦幼衛生協会遜得雄理事長を団長に、台北市立総合医院婦幼院区顧問医師江千代副団長、行政院衛生署国民健康局児童及青少年組曾徳運組長ら 12 名の受け入れを行い、本会の進める思春期保健事業の取り組み及び台湾での思春期保健の取り組みについて、相互の経験交流を行った。

(5) 9月7日(水)

JICA 沖縄・沖縄県看護協会の依頼による、メキシコ母子保健看護コースに参加する地域看護の専門家7名の受け入れを行い、本会が展開する思春期保健についての経験を通じて同国への可能な展開を伝えた。

(6) 11月28日(月)～12月1日(木)

本会理事北村邦夫を中国・上海市人口計画生育委員会によるエイズ予防デー行事に派遣した。

2. 国際家族計画連盟 (IPPF) 関連

(1) 6月20日(月)

IPPF 事務総長スティーブン・シンディグ氏と IPPF 東・東南アジア・オセアニア地域事務局長ラジ・カリム氏が来日、9月に開催される国際人口開発会議で討議されるミレニアム開発目標達成に向けた日本政府への働きかけについて協議を行った。

(2) 7月31日(日)～8月6日(土)

マレーシア国クアラルンプールで開催された IPPF 東・東南アジア・オセアニア地域会議に、本会理事、小長井春雄 (ミレニアム開発目標ワークショップ・事務局長会議・地域理事会)、山口澄江 (地域理事会)、飯島愛子 (地域執行委員会・地域理事会) の3名を派遣した。地域理事会においての地域執行委員選出選挙で、定年を迎える飯島愛子理事に代わり山口澄江理事が執行委員として選出された。

(3) 平成18年2月9日(木)～2月12日(日)

カンボジア国プノンペンで開催された IPPF 東・東南アジア・オセアニア地域執行委員会に本会理事山口澄江を派遣した。

3. 国際協力機構 (JICA) の委託による家族計画国際協力財団 (JOICFP) 実施研修

(1) 5月23日(月)

研修名：JICA/JOICFP 思春期保健セミナー～若者参加と環境づくり

参加者：エルサルバドル・ガテマラ・カンボジア・ケニア・マラウイ・メキシコ・ニカラグア・フィリピン・セネガル・タイ・ザンビア・ミャンマーからの研修生12名。

(2) 5月31日(月)

研修名：JOICFP 要請個別受入

参加者：アフガン医療連合センターからの2名。

(3) 7月7日(木)

研修名：JOICFP/中国 IP 地域保健訪日団

参加者：甘肅省人口計画生育委員会副主任他13名。

(4) 8月30日(火)

研修名：JICA/JOICFP リプロダクティブ・ヘルス NGO セミナー、
参加者：バングラデシュ・ボリビア・エジプト・ホンジュラス・ケニア・メキシコ・
モザンビーク・ミャンマー・パキスタンからの研修生 12 名。

(5) 9月27日(火)

研修名：JOICFP/中国人口計画生育視察団
参加者：国家人口計画生育委員会人事司長崔麗氏、上海市人口計画生育委員会主任謝玲
麗氏他 12 名

(6) 10月19日(水)

研修名：JOICFP/中国江蘇省家庭老人保健視察訪日団
参加者：江蘇省人口計画生育委員会主任張肖敏以下 7 名

(7) 11月22日(火)

研修名：JOICFP/リプロダクティブ・ヘルス行動変容推進セミナー
参加者：ケニア・マラウイ・タンザニア・ウガンダ・ザンビアからの研修生 10 名。

(8) 平成 18 年 2 月 28 日(月)、3 月 1 日(水)

研修名：JICA/JOICFP ベトナム国リプロダクティブ・ヘルス個別研修
参加者：ゲアン省の指導者 10 名

XV 関係団体との協力

関係団体と密接な協力関係を持って本会の事業の達成を図った。

1. (社) 母子保健推進会議の事務局運営に協力した。
2. (財) 家族計画国際協力財団、(財) 予防医学事業中央会、(財) 東京都予防医学協会、
(社) 全国保健センター連合会との密接な協力を行った。
3. その他関係団体との協力を密に活動を行った。

庶務事項

1. 会議

(1) 理事会の開催

1) 第1回通常理事会は平成17年5月30日(月)にグランドヒル市谷で開催され、提出された議案はすべて原案どおり可決承認された。

第1号議案 平成16年度事業報告(案)並びに収支決算報告(案)承認の件

第2号議案 監査報告

第3号議案 平成17年度日本自転車振興会補助事業の内定に関する受諾可否の件

その他

2) 第2回通常理事会は平成18年3月27日(月)にグランドヒル市谷で開催され、提出された議案はすべて原案どおり可決承認された。

第1号議案 平成18年度事業計画(案)承認の件

第2号議案 平成18年度収支予算(案)承認の件

その他

(2) 総会の開催

1) 第1回通常総会は平成17年5月30日(月)にグランドヒル市谷で開催され、提出された議案はすべて原案どおり可決承認された。

第1号議案 平成16年度事業報告(案)並びに収支決算報告(案)承認の件

第2号議案 監査報告

第3号議案 平成17年度日本自転車振興会補助事業の内定に関する受諾可否の件

その他

2) 第2回通常総会は平成18年3月27日(月)グランドヒル市谷で開催され、提出された議案は全て原案どおり可決承認された。

第1号議案 平成18年度事業計画(案)承認の件

第2号議案 平成18年度収支予算(案)承認の件

その他

2. 訃報

本会 小松充明 職員が平成17年7月2日(土)に逝去された。(享年53歳)